

「明治150年記念 明治・大正のベストセラー展」 展示資料一覧

例)

番号	書影	著者名
		書名
		出版年
		出版社

1. 開花期のベストセラー

-福沢諭吉・末広鉄腸^{てつちよう}・矢野龍溪^{りゅうけい}ら

1		福沢諭吉
		『学問のすゝめ』
		明治5(1872)年～6年
2		中村正直(サミュエル・スマイルズ著)
		『西国立志編』
		明治4(1871)年7月
3		末広鉄腸
		『政治小説 雪中梅』
		明治19(1886)年8月
		博文館
4		矢野龍溪
		『経国美談』
		明治19(1886)年1月(第8版)
		報知社
5		押川春浪
		『海島冒険奇譚 海底軍艦』(復刻版)
		明治33(1900)年11月(原本)
		東京堂
6		押川春浪
		『武俠の日本』
		明治44年11月5日(第25版)
		博文館
7		巖谷小波
		『こがね丸』(復刻版)
		明治24(1891)年1月3日(原本)
		博文館

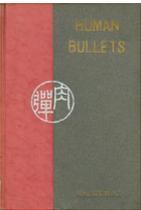
2. 「金色夜叉」^{こんじきやしや}と「不如帰」^{ほととぎす}の時代

-尾崎紅葉^{こうよう}・徳富蘆花^{ろか}・小杉天外^{てんがい}ら

8		尾崎紅葉
		『金色夜叉』
		明治31(1898)年1月～36年6月
		春陽堂
9		徳富蘆花
		『不如帰』
		大正4(1915)年9月(140版)
		民友社
10		小杉天外
		『魔風恋風』
		明治37(1904)年1月～5月
		金港堂
11		柳川春葉
		『生さぬ仲』上巻
		大正2(1913)年4月
		文淵堂
12		宮崎湖処子
		『帰省』
		明治29(1896)年5月(16版)
		民友社
13		高山樗牛
		『滝口入道』
		明治43(1910)年8月(14版)
		春陽堂
14		綱島梁川
		『病間録』
		明治38(1905)年9月
		金尾文淵堂

3. 忘れられた新聞小説の人気作家たち

-菊池^{ゆうほう}幽芳・村上^{なみろく}浪六・村井^{げんさい}弦齋ら

15		菊池幽芳
		『若き妻』前編
		明治35(1902)年2月
		春陽堂
16		田口掬汀
		『伯爵夫人』切抜
		明治38(1905)年4月～8月
		「万朝報」
17		村井弦齋
		『小猫』切抜
		明治29(1896)年1月～9月
		「報知新聞土曜附録」
18		村上浪六
		『再考 三日月』
		明治24(1891)年7月
		春陽堂
19		武田仰天
		『源氏車』
		明治33(1900)年10月
		青木嵩山堂
20		櫻井忠温
		『Human Bullet: Niku-Dan(肉弾)』英訳版
		明治42(1909)年9月
		丁未出版
21		木下尚江
		『良人の自白』上巻
		明治41(1908)年10月(21版)
		梁江堂

4. ベストセラー作家としての夏目漱石

22		夏目漱石
		『吾輩は猫である』
		明治39(1906)年9月
		大倉書店
23		夏目漱石
		『三四郎』新聞切抜
		明治41(1908)年9月1日～12月29日
		「東京朝日新聞」
24		夏目漱石
		『心』新聞切抜
		大正3(1914)年4月20日～8月11日
		「東京朝日新聞」
25		夏目漱石
		『心』
		大正3(1914)年9月
		岩波書店
26		夏目漱石
		『明暗』
		大正6(1917)年1月
		岩波書店
27		菊池寛
		『真珠夫人』
		昭和5(1930)年7月
		改造社文庫

5. 大量消費と大量出版の時代の文学

— 島田清次郎・有島武郎・倉田百三ら

28		島田清次郎
		『地上』
		昭和2(1927)年8月(250版)
		新潮社
29		島田清次郎
		『大望』
		大正9(1920)年10月
30		賀川豊彦
		『死線を越えて』
		大正10(1921)年7月(93版)
31		倉田百三
		『出家とその弟子』
		大正11(1922)年2月(177版)
32		有島武郎
		『有島武郎著作集』
		大正6(1917)年6月～翌年9月
33		中勘助
		『銀の匙』
		大正15(1926)年4月
34		長田幹彦
		『祇園夜話』
		大正7(1918)年2月
		新潮社